

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取り組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内	11
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	11
➤ 会員募集中	12

巻頭書記

JRRN では、9月8日に第6回ミニ講座を開催いたします。前回に引き続き、海外からのご講演者です。「中国の挑戦～気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて」と題し、北京師範大学の徐教授にご講演いただきます。会員の皆様には既にメールでご案内しておりますが、ぜひご参加いただければ幸いです(9ページイベント案内をご覧ください)。

本号では、3件の会員投稿をいただきました。台

湾の河川の視察報告、多自然川づくりに向けた地域住民の活動をご紹介いただき、水辺からのメッセージでは毎号行ってみたいと思わせてくれる水辺風景をご紹介いただいています。こうした会員の皆様の御協力や声の一つ一つがネットワーク発展の大切な要素になります。

引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

台湾視察団との交流報告(川・人・街～河川整備交流座談会) (平成22年8月16日)

2010年8月16日(月)、台湾から「川と街づくり視察団(約40名)」が来日し、リバーフロント整備センター(JRRN事務局)を訪問し、かわまちづくりや河川環境整備に関する交流座談会を行いました。

<交流プログラム>

- 台湾視察団より、各団体の概要について紹介
- リバーフロント整備センターより、当センターの研究概要及びARRN/JRRNについて紹介
- リバーフロント整備センターより、川と地域が一体となった街づくりの施策・事例について紹介

○川人街に関わる河川整備全般についての意見交換

本視察団一行は、台湾で川を軸とした街づくりに携わる地域活動団体、全国規模の市民ネットワーク、民間企業、学術団体、行政関係者、公益法人等で構成され、日本における最近の河川環境整備の取り組みや、特に市民の関わりなどを学ぶことを目的に来日されました。





台湾視察団の各団体の位置図

台湾では、昨年8月の台風8号により、過去50年間で最悪といわれる多大な被害（八八水災）を被りました。4日間で台湾の年間降水量2500mmを上回る降雨を各地で記録し、土砂災害や堤防決壊、橋梁断裂などが発生しました。この八八水災後の復興のための地域づくりが、今なお大きな課題となっています。



八八水災による被害の状況

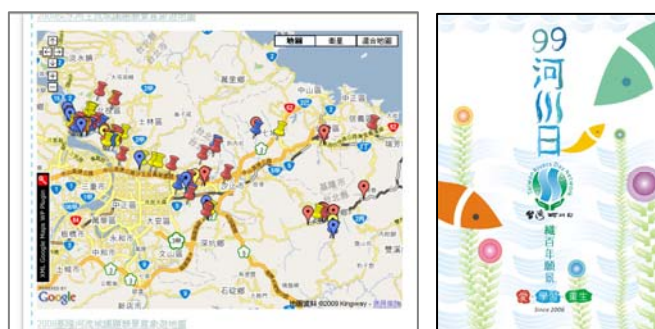
例えば、「屏東縣綠元氣產業交流促進會」では、地域の産業・文化の体験・交流活動を通じて、水害後の地域活性化を支援する取り組みがなされています。



「屏東縣綠元氣產業交流促進會」の取り組み

「千里步道」からは、住民参加による河川資源調

査を実施し、その結果をGIS（Google MAP）上に整理して情報発信を行う取り組みが紹介されました。これは、水害の教訓を活かし、河川が豊かな自然環境資源で人間の生活に潤いを与えてくれる一方で、時として氾濫し人命を奪う恐ろしいものであることを再認識することを狙ったものです。また、日本の「川の日」（7月7日）のように、台湾でも、「台湾河川日」を定め、河川愛護の意識を醸成するための様々な活動を行っています。今年は、翌年の建国100年にならって、「99河川日」とし、全国の河川で調査・イベントなどを行っています。



河川資源マップ（左）、台湾河川日パンフ（右）

自然再生の取り組みとしては、「北投區奇岩社區發展協會」では、住民参加による生態池（ビオトープ）の造成・保全を行っています。



崇仰公園 生態池（ビオトープ）

視察団の方々はリバーフロント整備センターの研究内容に大きな興味を示しており、意見交換では、地域連携・支援だけでなく、土砂管理や外来種対策、高規格堤防など幅広い分野で議論が行われました。また、台湾においては、一般市民の河川への関心は

まだまだ十分でないとのことで、各団体そして我々ARRN/JRRN事務局としても、今後も情報交流を行いながら、より積極的に活動していく余地があることを共感しました。

台湾視察団から紹介のあった取り組みでは、「社區（コミュニティ）」の再建というのが一つのキーワードとなっていました。日本においても、自然再生だけでなく、流域やまちづくり等と一体となった地域・文化の再生事例が増えています。地域の活動・交流を促すコミュニティの再生から、その地域の活力を利用して人間活動と自然環境が共存できる場を創出することが、これからの地域・自然再生の重要な視点の一つになるかと思います。

今回、台湾視察団がリバーフロント整備センターと交流するきっかけとなったのは、当センターが発行した「川・人・街 川を活かしたまちづくり（山海堂、2001年5月）」を視察団のメンバーが手にしたことでした。当センターから発信した情報が各地で活用・参考にされていることはとても喜ばしいことであり、それを通じてネットワークが広がったことは非常に価値のあることだと思います。

これまでのARRN/JRRNの活動でも台湾の団体との交流は多く、その度に、街や地域が抱える課題に対し自分たちができることを見出そうとする強い使命感と情熱を感じます。今回の交流が、アジアの河川に関わる新たな「社區（コミュニティ）」の形成の一歩となったのではないのでしょうか。



書籍「川・人・街 川を活かしたまちづくり」

※絶版



台湾視察団から ARRN/JRRN 事務局へ記念品贈呈

台湾視察団の各団体の詳細については、以下のサイト（中国語）を参考にしてください。

○社區營造學會

<http://www.peopo.org/cesroc>

○北投區奇岩社區發展協會

サイトなし

○社區大學全國促進會

<http://www.napcu.org.tw/website/>

○千里步道

<http://www.tmitrail.org.tw/>

○經典工程顧問有限公司

<http://classic.web66.com.tw/>

○鼎漢國際工程顧問公司

<http://www.thi.com.tw/>

○北門社區大學

<http://beimen-cu.myweb.hinet.net/>

○台灣南方影像學會

<http://www.south.org.tw/>

○旗美社區大學

<http://cmcu.ngo.org.tw/>

○台灣藍色東港溪保育協會

<http://web.actkr.org.tw/>

○屏東縣綠元氣產業交流促進會

<http://tw.myblog.yahoo.com/powerlandblog/>

○屏東縣政府

<http://www.pthg.gov.tw/tw/index.aspx>

(JRRN 事務局／リバーフロント整備センター 後藤勝洋)

JRRN 活動報告(2)

ARRN主催「第7回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」及び「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」ご案内（2010年9月14日・韓国ソウル市）

ARRNでは、2010年9月12日から韓国ソウル市で開催されるISE2010の特別セッション内で、「第7回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」及び「アジアの河川再生技術に向けたラウンドテーブル会議」を開催いたします。

今年度で7回目を迎えるARRN国際フォーラムでは、参加者それぞれの国における情報や課題等の発表を通じ、技術の向上を図ることを目的としています。また、今回初めて開催するラウンドテーブル会議では、アジア各国及びネットワークに関わる代表者を中心として河川・流域再生におけるネットワークの利用の仕方等について議論及び意見交換を行うことで、アジアにおける河川・流域再生の技術やネットワークを発展させることを目的としています。国際フォーラムは3年連続で海外での開催となり、会員の皆様にご参加いただくことが難しいですが、これらの行事から得られた情報は、ニュースレターやJRRNホームページでご報告するとともに、今後の開催方法についても検討していく予定です。

【第7回国際フォーラム】

Excellence in Engineering Practice in River and Waterfront Restoration

～The 7th International Forum on Waterfront and Watershed Restoration～

日時：2010年9月14日（火）14:00-15:30

座長：白川直樹 氏

（JRRN 技術委員、筑波大学大学院准教授）

副座長：Bong Hee Lee 氏 （KRRN 事務局長）

【講演 1】 River Restoration Practices and effective knowledge transfer across Europe（ECRR 会長 Bart Fokkens 氏）

【講演 2】 Study on Environmental Flows and Eco-Restoration Practice in Yellow River Delta Wetlands（Wang Xingong 氏）

【講演 3】 Improvement of Individual-based Models by Using GIS and a Wild Animal Auto-Tracking System（（独）土木研究所 主任研究員 傳田正利 氏）

【講演 4】 Development of Technology for Aquatic Ecosystem Restoration in Korea（Dr. Sunok Jeon）

【講演 5】 A Prototype of Decision Support System for Ecological Urban River Restoration（Prof. Weon Jae Kim）

【ラウンドテーブル会議】

How to develop technology and Guideline for river restoration through networks

日時：2010年9月14日（火） 16:00-17:30

コーディネーター

玉井信行教授（ARRN 会長、金沢学院大学大学院）

パネリスト

- ・ Mr. Bart Fokkens（ECRR 会長）
- ・ 白川直樹 氏（JRRN 技術委員、筑波大学大学院准教授）
- ・ KRRN メンバー
- ・ CRRN メンバー
- ・ ARRNメンバー以外の方（予定）

ISE（International Symposium of Ecohydraulics）

：国際生態水工学会

開催日時：2010年9月12日～16日

場所：韓国ソウル市、COEX

ホームページ（英語）はこちら

→<http://www.ise-2010.org/>

（JRRN 事務局 沼田彩友美）

会員寄稿記事(1)

台湾經濟部水利署水利規劃試験所の方々と台湾の河川を見てきました。

寄稿者：滝 泰臣(JRRN 会員)

7月13日から3日間、台湾の經濟部水利署の方々のご協力で昨年8月の台風8号*による被災箇所の復旧現場と河川整備の現状について見学し、各河川局の方々と意見交換をしてみました。

(*2009年8月6日に台湾東部に上陸した台風8号<Morakot>は3日間降雨量で世界最大級の2400mm～3000mmという豪雨をもたらしました。この豪雨により高雄縣小林村では村全体が壊滅するなど台湾中・南部を中心に甚大な被害となりました)



大里溪中流部改修済状況（台中）



大坑溪上流（河床洗堀の状況）（台中）



大里溪水衝部根固移動状況（台中）



大坑支川床固上流土砂撤去状況（台中）



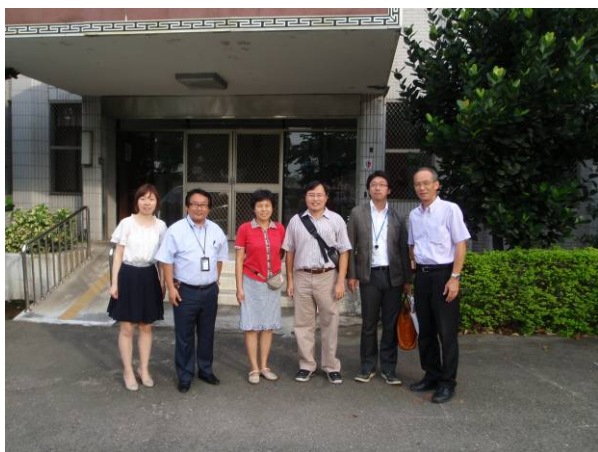
曾文溪災害復旧後の堤防状況（台南）



水利規劃試驗所でのプレゼン状況

今回見学した河川は河床勾配 $1/70 \sim 1/90$ と非常に急な河川が多かったため、護岸は厚さ 30cm の無筋コンクリートで構築され、治水重視の整備がなされていた。急流河川のため河床材料の大きい上流部では河床の洗堀も進行していた。護岸や根固めの形が固定的であるため、今後は河床に追従する護岸形状や植栽の回復を計画中であった。

また河川整備においては地域住民とワークショップを重ね意見を反映する形で事業をおこなっているが、日本のように内水の漁業組合という組織は無いとのことであった。



水利規劃試驗所の王さん陳さんと

また国直轄の河川管理は各水系の治水計画を水利規劃試驗所が把握しており、全国 10 箇所の河川局が工事発注と管理を行っていた。管理も上流から下

流まで水系ごと一つの河川局が管理しており、水系のなかで分割管理することは無いそうである。そのため広範囲の管理区域となるが河川全体の計画や事業の実施はスムーズに行われている。



水利署水工試験所（海岸港湾関係）

翌 15 日水利署の海岸関係の研究施設である成功大学水工試験所も黄博士のご好意で案内していただきました。アジア一番の設備ということで平面水槽（ $150\text{m} \times 50\text{m}$ ）・2 次元水路（300m）と充実した実験設備でした。運用も民間企業からの実験を直接受注して実験を行っているようで、訪問した際もベトナムの港や台湾沿岸漂砂の実験が行われていました。



最高のマンゴカキ氷（これで 180 円）

最後になりますが、今回の台湾訪問は経済部水利署水利規劃所の王さんはじめ JRRN 事務局の皆様のおかげで充実した内容になりました。末筆ながら皆様に厚くお礼申し上げます。

会員寄稿記事(2)

愛媛県小田川と麓川の多自然川づくり

寄稿者：藤原 美紀（鞍瀬塾事務局・JRRN 会員）

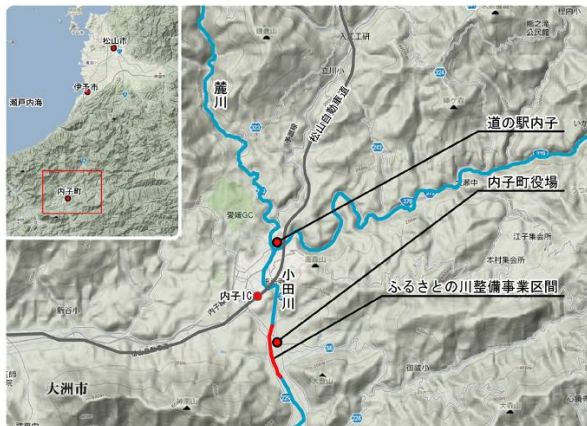
(1) 多自然川づくり研修会の開催

住民主導の地域づくりを進めている「周桑いのちの樹」では、専門部会の東予環境グループと鞍瀬塾の主催にて、今年度から 10 年の予定で、「多自然川づくり研修会」を開催します。本研修会は、多自然川づくりの考え方から、事業の進め方まで多自然川づくりに関する事業全般を研修のテーマとして掲げています。今年度は、多自然川づくりサポートセンターから講師に迎え、多自然川づくりについて実施場所の見学等を通じて事業者、行政関係者、市民の理解を深めることを目的に、東・中・南予地区の 3 地区において、2 回の研修会の開催を予定しています。

今回、吉村伸一氏（(株) 吉村伸一流域計画室）を講師に迎え開催した南予地区の第 1 回研修会の概要、愛媛県における多自然川づくりの取組について紹介します。

(2) 第 1 回南予地区研修会のあらまし

8 月 3 日に南予地区研修会を愛媛県内子町で開催しました。会場となる内子町は県都松山市から高速で 1 時間の距離に位置します。この研修会では、愛媛県が事業を行った小田川のふるさと川の整備事業箇所と内子町が事業を行った麓川（ふもとがわ）にて実地研修を行いました。



研修会開催場所



研修風景

南予地区研修会には、行政関係者、愛媛県内の NPO 関係者等を中心に 23 名が参加しました。

1) 小田川について

小田川の多自然型川づくりは、旧建設省（現国土交通省）の河川行政を治水・利水を主目的とする河川の管理から川自身が持つ自然の力を保全・活用する河川の管理に変えるきっかけとなった事業として知られています。

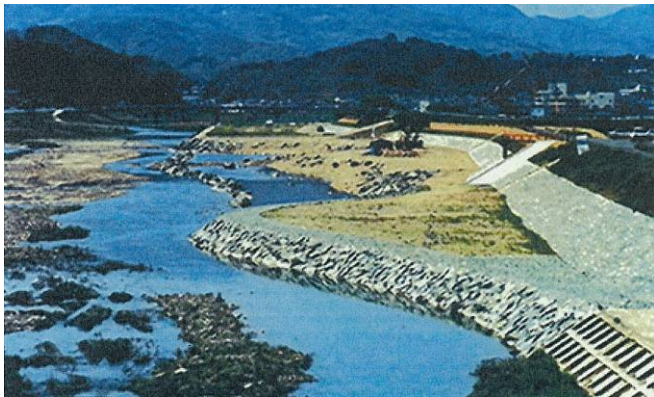
当時の環境に配慮した河川整備の先進地スイスへの地域住民の自費研修がきっかけとなり、「スイスと五十崎・川の交流」シンポジウムを 1988 年 10 月 26 日に開催しました。シンポジウムに参加した建設省の職員が強い関心を持ち、スイスで用いられている工法を日本に導入することとなったという経緯があります。

1984 年に小田川にて愛媛県によるコンクリート護岸への改修工事が始まり、河原の榎が伐採され始めました。それを眼のあたりにした流域住民らが、美しい小田川を未来に残そうと、小田川の護岸工事をコンクリートではなく玉石で行うという試みで、住民が一人一個の漬物石を持ち寄るという「美しい小田川を未来に引き継ぐ石一個提供運動」をはじめました。

しかし、持ち寄った石では大きさに不都合があり、使用不可能であるということを受けて、コンクリート護岸から玉石護岸に変更のためにかかる差額を、住民が「いかざき小田川はらっぱ基金」として募金し、2,500 万円を集めました。

1987 年 12 月に小田川（旧五十崎町）は、当時の建設省により「ふるさとの川モデル河川」に指定され、この玉石護岸は、国費により施工されました（1989 年 6 月認定）。当時募金された基金は、現在小田川の維持管理費として活用されています。

研修会では、ふるさとの川整備事業の親水護岸整備箇所、魚類の避難場所となるよどみ整備箇所を見学し、当時の整備の考え方、整備後 13 年経過した現在の環境状況を学びました。



整備後 13 年が経過した魚の避難場所

（上：1997 年施工時、下：2010 年 8 月現在）

2) 麓川について

麓川は、小田川と同時期に整備された河川で、山峡を流下する川幅 5m 程の小河川です。

麓川では、落差工による魚類の遡上環境阻害を解

消する魚道整備事例や水制工を用いた県道法面防護の計画のねらいや工夫について、施工業者や設計者から説明をいただきました。



麓川の魚道（5m 程の落差を解消している）



水制工により形成された州に生じた植生（写真右側）

(3) 現地見学を終えて

このたびの研修会で見学した小田川、麓川はともに、整備後に自然の営力により堆積した土砂が州を形成し、良好な水際植生を持つ河川環境を形成していました。

多自然川づくりが、川の管理（マネジメント）まで含めた事業である以上、整備直後の姿（景観）ではなく、整備後十数年、数十年先に良好な環境が整備される事業であること、極力人為的な管理を行わずとも自然の営力を生かした環境が維持できることが好ましい事業の条件であると感じました。

水辺からのメッセージ No.16

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

巴波川あつての商都とちぎ

現代においても市民の宝:10万匹の鯉の放流によって市民が目を巴波川に向けるように



撮影：2010年8月（栃木県栃木市巴波川）

◆豊かな水源によって守られる清流

巴波川の水源でもある思川の伏流水によって、地中の養分や炭酸ガスを多く含む水質となり、豊かな川藻が繁る川となっています。

◆水質調査に取り組む栃木高化学クラブ

東大助手時代の宇井純の指導のもと、母校の後輩たちによる継続的は巴波川（うずまがわ）の水質調査が力になって、市民自らの水質浄化活動に発展しました。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2010 年 8 月分)

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 個人会員より、アメリカにおけるメキシコ湾汚染や水環境問題に関わる複数の報道記事情報をご提供頂きました。すべての英文報道記事に対し、日本語仮訳資料もご提供頂いております。

●メキシコ湾オイル流出による海岸汚染調査報道記事



→<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/00-0059.pdf>

●米国 Cape Cod の水環境問題報道記事



→<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0063.pdf>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である社団法人日本河川協会から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第 148 回】

◆テーマ:「川と水の法律文化～比較と交流の理解のために」

◆講師: 三本木健治氏 (国際水法学会理事)

◆日時: 平成 22 年 9 月 29 日 (水) 18:00～20:00

◆場所: 厚生会館 (全国土木建築健保)

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no148.htm

【第 149 回】

◆テーマ:「環太平洋の生命文明: 水の循環を守った文明」

◆講師: 安田喜憲氏 (国際日本文化研究センター教授)

◆日時: 平成 22 年 10 月 25 日 (月) 18:00～20:00

◆場所: 厚生会館 (全国土木建築健保)

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no149.htm

○参加費: 一般 :500 円、当協会二種正会員(個人会員)/学生: 無料

○申込/問合わせ: (社) 日本河川協会

TEL: 03-3238-9771 FAX: 03-3288-2426

E-mail: kataru@japanriver.or.jp

URL: <http://www.japanriver.or.jp/>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 会員である「鞍瀬塾」様より、愛媛県で開催される「多自然川づくり研修会 第2回開催(中予地区・東予地区)」のご案内を頂きました。第一回開催の様子は、本誌の寄稿記事でも紹介されています。

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2267.html>



【海外からの情報提供】

■第 8 回生態水工学国際シンポジウム (ISE2010)

ARRN の韓国窓口組織である韓国河川再生ネットワーク (KRRN) 前事務局長・Hyoseop Woo 氏が現地組織委員会委員長を務める「第 8 回生態水工学国際シンポジウム (ISE2010)」が、2010 年 9 月 13 日～16 日に韓国・ソウル市で開催されます。

本行事では、河川再生に関わるセッションも複数開催され、欧米及びアジアから本分野に関わる専門家が一堂に集まり活発な議論が期待されます。

なお、今年の「第 7 回 ARRAN 国際フォーラム」は、本国際会議の特別セッションとして実施致します。日本からの多数のご参加をお待ちしております。

・開催時期: 2010.9.12～16

・開催場所: 韓国・ソウル市

・主催: 韓国水資源協会

※詳細は以下参照 (言語: 英語)

→ <http://ise-2010.org/>

【海外からの情報提供】

■国際河川シンポジウム (Riversymposium2010)



2010 年 10 月 11 日～14 日にオーストラリアにて International Riversymposium が開催されます。ARRN や ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) もネットワーク活動の成果を発表予定です。

※詳細は URL 参照: <http://www.riversymposium.com/>

会議・イベント案内（2010年9月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

■「英国リーズ大学地理学科 Paul Waley 教授との河川再生に関わる意見交換会」※JRRN 会員限定行事

○開催時期：平成 22 年 9 月 3 日（金）午後 3:00～午後 5:00

○URL：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2299.html>

■第 6 回 JRRN 河川環境ミニ講座「中国における水問題（仮題）」

○講師：徐 宗学 教授（北京師範大学） ○開催時期：平成 22 年 9 月 8 日（水）午後 1:30～午後 3:00

○URL：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2304.html>

■ARRN 主催「第 7 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」

○開催時期：平成 22 年 9 月 14 日（火）午後

○開催場所：韓国・ソウル市（第 8 回生態水工学国際シンポジウム ISE2010 内の特別セッションとして開催）

○URL：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2296.html>

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■全国なぎさシンポジウム in 愛知

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2279.html>

■第 18 回リバーフロント整備センター研究所報告会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2107.html>

■市民交流シンポジウム「水の循環と人間のかかわり」

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2261.html>

■応用生態工学会 第 1 4 回札幌大会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2283.html>

■江戸東京博物館 特別展「隅田川」

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2263.html>

■第 148 回 河川文化を語る会『川と水の法律文化』

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2239.html>

■多自然川づくり研修会 第 2 回（東予地区）

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2269.html>

■琵琶湖外来魚駆除大会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2265.html>

■洪水～地域多様性を有する世界的問題～

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2282.html>

■応用生態工学会 北陸現地ワークショップ in 富山

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2284.html>

■第 35 回 多摩川流域セミナー

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2286.html>

■水郷水都全国会議 第 26 回滋賀大会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2287.html>

■歴史的用水国際シンポジウム in 金沢

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2154.html>

■応用生態工学会 近畿現地ワークショップ in 淀川

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2285.html>

■第 1 回全国小水力発電サミット in 都留

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2262.html>

■第 149 回 河川文化を語る会『環太平洋の生命文明』

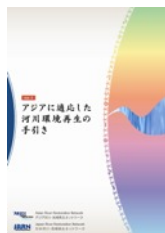
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2272.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1

（2009. 3 発刊）

- ・ 発行：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- ・ 価格： 無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財) リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 河川の管理と空間利用 ―川はだれのものか、どうつき合うか―（2009. 9 発刊）

- ・ 著者：吉川勝秀（JRRN 会員）
- ・ 出版社：鹿島出版会
- ・ 発行年月：2009 年 9 月
- ・ 価格：3,570 円（税込）
- ・ ISBN：978-4306024137



本書は、河川管理の実務的ノウハウを踏まえ、これからの河川の管理・整備、そして河川空間の利用についての全体像を述べた解説書です。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

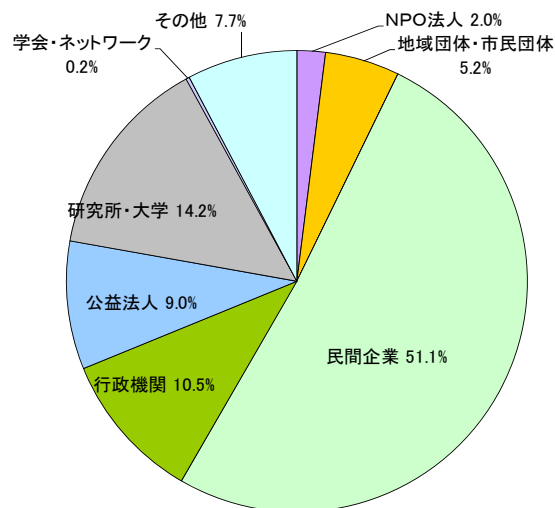
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010 年 9 月 1 日時点の個人会員構成
(個人会員数：449 名、団体会員数：19 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフテー中央ビル 7 階

Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、財団法人リバーフロント整備センターと株式会社建設技術研究所が運営を担っています。